

第 38 回土木計画学研究発表会（秋大会）：2008 年 11 月 1 日～3 日（和歌山大学）
セッション討議内容の記録

セッション名： GIS・リモートセンシング	
日付：11月 2日 （日）曜日、セッション時間： 9：00 ～ 10：30	
司会者名（所属）： 北詰 恵一（関西大学）	
討 議 内 容	セッション全体： 最初の発表は、防災統合システムの自治体への導入問題、第2の発表は、画像データからの地震による建物倒壊状況抽出法、第3の発表は、緑被分布とヒートアイランドデータとの関連分析に基づく環境軸の議論を、それぞれ取り扱ったものである。テーマが個々に異なることから、それぞれ議論を行った。しかし、いずれも行政における各個別分野の政策検討における個々の GIS/リモートセンシング利用に関するものであることから、自治体のもつスキルや活用データおよび分析手法などにおいて、それぞれの壁を越え、他分野との相互理解や組合せやなどの総合的な取り組みによって、より効果的な分析が可能であるとの取り纏めを行った。
	（167）発表者名（所属）： 畑山満則（京都大学防災研究所） “Social Implementation Process Analysis of Integrated GIS with RARMIS Concept to Local Governments and Regional Community” 本論文は、リスク対応型地域空間情報システム（RARMIS）の概念を持つ自治体統合型 GIS の導入過程での成功あるいは失敗要因を、6つの自治体の例をもとに分析したものである。議論したい点は、行政が、情報システムを導入し、防災への応用まで使いこなせるようになるための過程の中で、ボトルネックやブレイクスルーとなる要因であった。市長の判断や外部資金の継続／停止などの要因が示されたが、なかでも、技術に詳しい(情報リテラシーの高い)利用者の存在と利用者の技術水準を理解できる開発者の存在、および両者の共同体制が重要ではないかとの議論が交わされた。
	（168）発表者名（所属）： 稲葉佳之（慶應義塾大学政策・メディア研究科） 「ALOS/PRISM 画像を用いた地震による建物倒壊状況の抽出」 本論文は、ALOS が広域で 2.5m の解像度と DSM が作成できる点に着目し、色差分と DSM 差分の両者を用いて、四川大地震による都江堰市建物被害を抽出することを試みたものである。議論したい点は、DSM を中心とした精度の検証についてであった。DSM を補助的に用いることで精度をあげるだけでなく、土地利用や建物特性などの地域情報との組合せ、複数の ALOS データの活用などを通じて、さらに精度向上が期待でき、少なくとも建物倒壊が顕著な発展途上国における地震被害については、迅速な把握への適用可能性が高いのではないかと議論が交わされた。
	（169）発表者名（所属）： 加藤哲（法政大学大学院） 「多摩地域における緑被分布の抽出と環境軸の形成に関する基礎的研究」 本論文は、ALOS と LANDSAT を用いて、緑地分布と熱データとの関係性を把握し、街路樹の整備された主要幹線道路の環境軸としての機能の有効性について検討したものであり、議論したい点もその点であった。緑地の集塊度算出方法や緑地とヒートアイランドとの関係性分析についての既存研究の活用や、実際の環境軸の形成手法についての議論が交わされた。さらに、ネットワークや風などの影響を考慮する必要性について指摘があった。